

17 世紀のオランダ東インド会社の活動

2021 年 10 月 10 日

37 回 竹本 修文

2021 年 9 月に投稿した「青で広がる～フェルメールとオランダ雑感」の第 6 項で「オランダの黄金時代 17 世紀」で、オランダ東インド会社とオランダ西インド会社に触れたところ、9 月 19 日付で中城様が、「オランダ黄金時代の跡～香料列島モルッカ諸島」で、筆者が全く知らなかったオランダ東インド会社の Deep な情報を、現地訪問記を含めて投稿されご紹介頂きました。中城さまが、現インドネシアのモルッカ諸島を訪問された事実を知っただけで驚いたのですが、日本人が傭兵としてオランダ軍に加わってイギリスと戦った事を知って興味がわき、不十分ですが、オランダ語の記録を英語に訳した文献で調べてみました。

1. インドネシアの概要

地図の出典：平凡社 世界地図帳 新訂第 4 版

① 図 1 インドネシア全図 最も東の A と記した地域の詳細地図が図 2 である。



② 図 2 インドネシアのモルッカ諸島のアンボン島を中心の地図

モルッカ諸島に属するアンボン島にオランダ東インド会社の拠点があり、モルッカ諸島の東側の小さなバンダ諸島にイギリスの拠点があった。バンダ諸島の詳細地図を、図 3 に示す。



③ イギリスの商館があった**バンダ諸島**（図2）の小さな島、**Run 島**と **Ai 島**



バンダ諸島は、モルッカ諸島の中央に位置し、ジャワ島から約 2000 km 東にあり、10 個の小さな火山島群から成る。19 世紀半ばまでは、香辛料のナツメグやメースは世界で唯一の生産地だった。大航海時代以前にはアラブ人が**海のシルクロード（南海路）** 経由で商売を独占していた。図4は、東西を結ぶシルクロードの三つのルートで、北から、草原のシルクロード（ステップ路）、砂漠のシルクロード（オアシス路）、海のシルクロード（南海路）である。大航海時代に入り、図5に示すように、ポルトガル人の航海士**マゼラン**はアンボイナ（＝**アンボン島**）を航行しており、香辛料は16世紀にポルトガル人がヨーロッパに紹介した。その頃にバンダ島民にキリスト教の布教を試みたが、東ティモールのように興味を示さなかった。小国ポルトガルは喜望峰を回る航路と沢山の補給基地を維持できずオランダに奪われた。



2. オランダの進出

① 16世紀、初期の交易の状況

ポルトガル人に続いて**オランダ人**がバンダ諸島に上陸してきたが、ポルトガル人より深く支配し、長く定住した。オランダ人とバンダ人の関係は当初から相互に刺々しく、最初のオランダ商人は、「バンダ人は価格・納期・数量・品質に合意していても契約を反故にする」と不平を言い、一方のバンダ人は香辛料の取引にはオランダの独占を許さず、他の取引先の参加も歓迎したが、オランダ人は暖かい島に住むバンダ人が欲しくもない毛織物、テーブルクロス、カーテン用織物などの工業製品を売りたいが、両者の関係は必ずしも良好ではなかった。

② オランダ東インド会社の設立

ジャワ人、アラブ人、インド人、ポルトガル人の商人は、鋼鉄ナイフ、銅、薬品や高価な中国製陶磁器など、バンダ人が欲しがる商品を持ち込んできた。オランダ人はバンダ人との商取引の仕方は気に入らなかったが、香辛料はバンダ島で仕入れた価格の300倍で売れるので、ヨーロッパ迄の航海のリスクを考慮しても十分なビジネスだった。こうして、儲かる商売に魅かれて取引業者が増えて、利益が減少しはじめたので、**1602年**にはオランダ人取引業者達は、東インド諸島との貿易の独占権を持つ**オランダ東インド会社**の設立をオランダ共和国の議会上に上程し承認された。

② オランダが香辛料の独占購入権を取得

オランダ人が香辛料の商売に参入する以前は、バンダ諸島の多くの種族長とアラブ商人が価格を交渉していたことは既に述べた。そして最大の消費地は**インド**であり、ヨーロッパの2倍であった。**1599年**、バンダ諸島の種族長たちは、オランダ人に説得されて（又は、騙されて）、オランダに香辛料の**独占購入権**を与える協定にサインさせられた。例えばバンダ人はこの協定は「**永遠の協定**」であると理解してなくとも、また、島々にいる沢山の種族長の全員がサインしてなくとも、オランダ軍が独占権を維持するために軍を派遣する事を正当化する根拠になった。

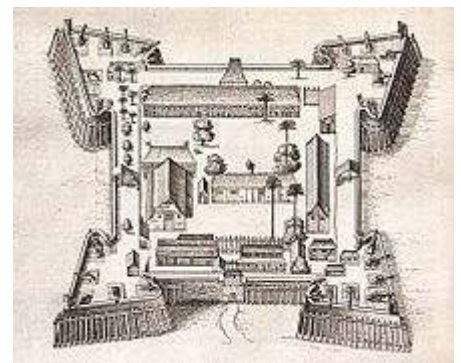
③ バンダ人の反撃

やがて、バンダ人達はオランダ人の安値買い、不要製品の売り付け、オランダ人の香辛料の買い付け独占権にうんざりしてきた。

そして、**1609年**にオランダ人がバンダ・ネイラ島の**ネイラ要塞 Fort Nassau on Bandanaira Island**(図3、参照)を強化した時にバンダ人達の堪忍袋の緒が切れた。種族長たちは、一丸となってオランダ海軍大将と40人のトップクラスの軍人を待ち伏せ攻撃して全員を殺害した。

図6は、1609年に強化した**新ネイラ要塞 (Fort Nassau)** **図6**

図6 の出典は Wikipedia 英語版



⑤ 英蘭競合関係

この地域でポルトガルとスペインの活動が下火になった間に、イギリスは**バンダ諸島**から10~20kmの小さな島、**Run島**と**Ai島**(図3)に要塞化した商館を建設した。彼らはオランダよりは高い価格で香辛料を買いつつ、オランダの独占権を切り崩そうとしていた。**1611年**にイギリスとオランダの緊張が高まり、オランダは**ネイラ要塞 (Fort Nassau)**を見下ろす丘の頂上より大きく、より強固な**ベルギカ要塞 (Fort Bergica)**を建設した。

1615年には兵士900人のオランダ軍はイギリス商館があるアイ(AI)島に侵入し、イギリス軍は隣のRun島に退却し、軍隊を立て直した。この攻撃のオランダ軍の中に**日本人の傭兵**がいた。同日の夜、イギリス軍はアイ島に奇襲反撃を開始して島を奪還し、200人のオランダ兵士を殺害した。その1年後の**1616年**、ずっと強大なオランダ軍がアイ島を攻撃した。今度は、イギリス軍は大砲で反撃して攻撃を食い止めたが、1か月の籠城で砲弾を使い果たしてしまい、オランダ軍はイギリス兵を虐殺し、要塞を強化して、「**Fort Revenge 復讐要塞**」と改名した。

⑥ アンボイナの虐殺

オランダ軍は、1623年にアンボイナ（＝アンボン島）にあるイギリス東インド会社商館を襲撃し、商館員を全員殺害した。1623年2月の夜、イギリス東インド会社に雇われていた平戸出身の七蔵という浪人が、オランダの衛兵らに対し、城壁の構造や兵の数についてしきりに尋ねていた。オランダ当局が、七蔵を拘束して拷問にかけたところ、イングランドが砦の占領を計画していると自白。直ちにイギリス東インド会社商館長ガブリエル・タワーソンら30余名を捕らえた当局は、彼らに火責め、水責め、四肢の切断などの凄惨な拷問を加え、これを認めさせた。

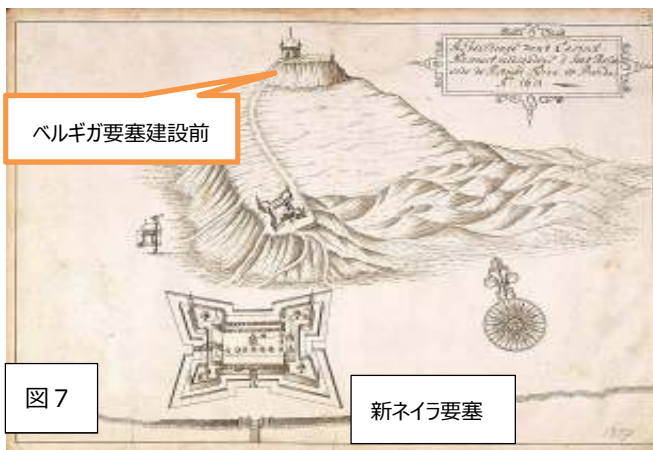
3月9日、当局はタワーソンをはじめイギリス人9名、日本人10名、ポルトガル人1名を斬首して、同島におけるイングランド勢力を排除した。実際にイングランドが襲撃を実行しようとしていたという自白の信憑性は低いものと考えられており、事件当時オランダ東インド会社総督であったヤン・ピーテルスゾーン・クーンは、自国の貿易独占を主張し、本国政府の対応を弱腰と非難していた為、事件は彼の仕組んだ陰謀であるとの説もある。

その後、この事件はイングランドにも伝わり、両国間で進行していた英蘭東インド会社の合併交渉は決裂、東南アジアにおけるイングランドの影響力は縮小し、オランダが支配権を強めた。しかし、かつて同量の金と交換されたこともあったほどの高級品だった香料の価格は次第に下落。それに伴い、オランダの世界的地位も下がり、海外拠点をインド、イランへ求めたイングランドは、良質な綿製品の大量生産によって国力を増加させていった。

1652年、第一次英蘭戦争の2年後、事件発生から31年後の1654年に、オランダが30万ギルダーの賠償金とニューヨークのマンハッタン島を支出することで決着した。

⑦ バンダ諸島 バンダ・ネイラ島の要塞

出典：Wikipedia 英語版

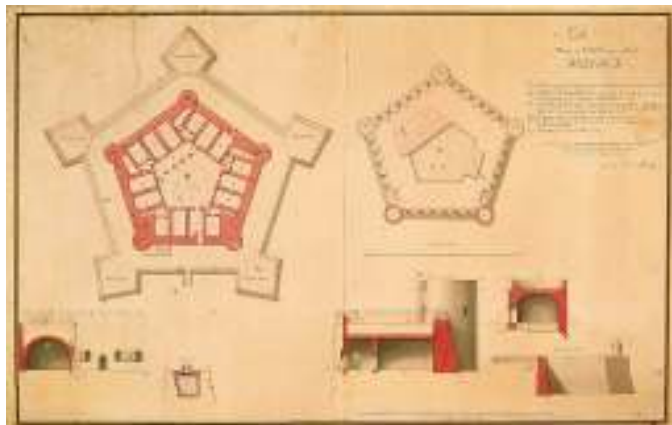


- ◇ 1512年、ポルトガル船長 Garcia がネイラ島に要塞建設を計画したが、現地人の反対に会い頓挫した。最初のネイラ要塞を作ったのは誰か？不明
- ◇ 1609年 オランダが新ネイラ要塞を建設した事でバンダ種族長団の反発を買い、オランダ海軍大將ほかの幹部が待ち伏せ襲撃される。
- ◇ 1611年、新ネイラ要塞の隣の丘の頂上にベルギカ要塞を建設

図8は、1611年にバンダ・ネイラ島の丘の頂上に建設された、強固なベルギカ要塞の図である。

オランダ人得意の五稜郭要塞だった。

図8



1662年、オランダ東インド会社のヤン・ペテルゾーンがベルギカ要塞を改修・拡張し、40名の兵士を常駐させるべく強化した。現在まで使用されている。図9は、1990年代のベルギカ要塞 出典は、Wikipedia 図9



注：イギリス東インド会社は、インドに拠点を置き、日本の平戸に至るまで広範囲に商館があり、説明を省略する。

3. 日本の関わり

① 第2項の ⑤ 英蘭競合関係 と、⑥ アンボイナの虐殺の記事の中に、**日本人の浪人がオランダ軍に雇われている。**

筆者は、ヨーロッパ史の傭兵は勉強したが、日本人の傭兵に関して知識がなかったので英語の文献を中心に調べてみたが、日本人の傭兵（Mercenary）の活動記録は発見できなかった。

ただし、オランダ軍に日本人の浪人 Masterless Samurai が雇われていた記録があるので、実際に傭兵だった、と確認したが、イギリス軍に雇われて、英語で記録されていたら、Mercenary と表現されていたと思う。

浪人の事を英語の文献では、**Masterless Samurai** と記載しているが、良い訳だと思いますね～？

② 16～17 世紀の浪人・逃亡者の発生と東南アジアへの移住

◇ **アユタヤ**の日本人町は 14 世紀に始まったとされるが、戦国時代には**主君を失った大勢の浪人が日本をはなれた。**

◇ 1600 年の関ヶ原の戦いの戦後処理で、西軍の 88 の大名家が改易され、大勢の浪人が発生した。

◇ 1612 年の禁教令以降、キリシタンへの弾圧が始まり、多くのキリシタンが日本を離れた。

◇ 1633 年の鎖国令迄の間に、多くの浪人が東南アジアに渡った。

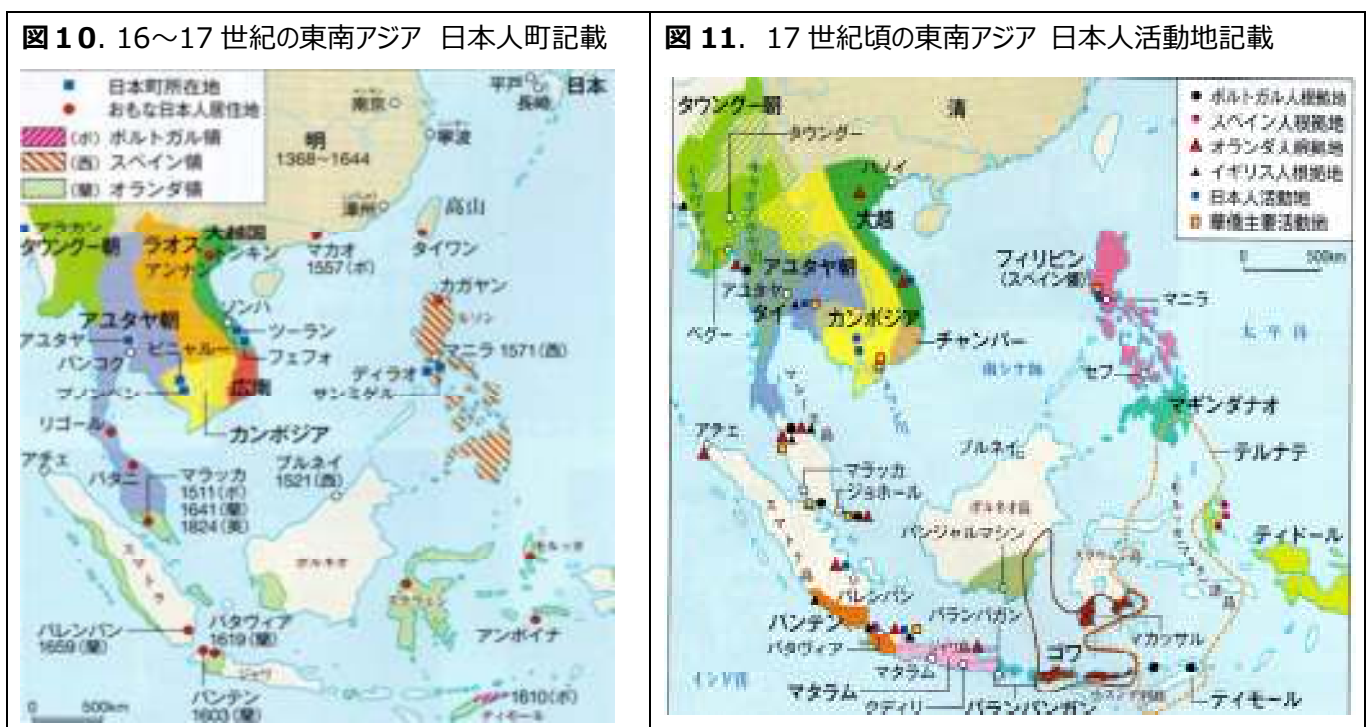


図 10 及び図 11 の出典は：詳説世界史図録 第 3 版 山川出版社

以上